

サイクモノナミ 細工者並 御細工者並は

天明四年六月二十八日鎧象眼師勝木市郎右衛門等のこれを命ぜられたるを初とし、四十俵を賜はつた。五年五月具足師岩井藤藏等亦此の並に命ぜられ、切米右の如く賜はつたが、その後宛行には定まつた格がなかつた。

サイゲンジ 西源寺 金澤觀音町に在つて、真宗東派に屬する。

サイケンモツ 才監物 才伊豆の子で、父の歿後家を襲ぎ、前田利常に仕へ、三千石を領し、後大聖寺藩祖前田利治に従うて移住した。監物の子次太夫の千五百石を賜はつたことは、承應二年の大聖寺藩士籍に見えるが、延寶二年から後の士籍にはもう見えない。

サイゴウ 在郷 士人の刑に在郷といふがあつた。農村に居住せしめる意で、不拘束の流刑ともいふべきものである。大聖寺藩では勝手不如意により、それを回復する爲請うて在郷するものもあつた。これは處罰ではない。

サイゴウオウマハリ 在郷御馬廻 士分にして城下を離れ、遠所に在住勤務するものをいうた。

サイコウジ 西光寺 金澤柳木町に在つて、真宗東派に屬する。

サイコウジ 西光寺 羽咋郡領家町に在つて、淨土宗に屬する。文明中鹿島郡本七尾西光寺の創立が隠居として創立したものといふ。

サイコウジ 西光寺 鹿島郡小島に在つて、真宗東派に屬する。初め感教といふもの、島山淨土宗に屬する。

サイ

氏から本七尾に寺地を得て創立したといふ。

サイコウジ 西光寺 凤至郡西院内に在つて、真言宗に屬する。寺藏に建久八年六月九日長谷部信連の寄進狀がある。

サイコウジ 西光寺 珠洲郡正院に在つて、真宗東派に屬する。寺藏の絹本着色親鸞聖人繪傳四幅は、各堅一米三七種・横七四種を測り、『大谷本願寺親鸞聖人之縁起加州加ト郡蒼

(倉)月庄木越光德寺常住物也。文明三歳辛卯六月廿五日釋迦花押。願主釋乘誓』の裏書を有する。また絹本着色聖德太子像堅一米八種・横四四種のものには、慶長十五年八月八日教如の裏書がある。

サイコウジ 西光寺 珠洲郡出田に在つて、真宗大谷派に屬する。初め京都に居たが、明治三十四年一月今之地に移つた。

サイサンザエモン 才三左衛門 加賀藩に於いて大身の侍であつたが、罪あつて江沼郡内鹽屋村に浪居し、茶筅を作つて渡世とし、乳母の病死した時、貧窮の爲詮方なく、菰に包んで自身で沙中に埋めた。三左衛門はかく零落はしたが、常に刀・脇指・具足一領・白無垢・駕斗目・上下及び薙刀一振を所持してゐたといふ。秘要難集に越前一伯公が忍んでこの邊に鷹狩に出かけられた際、三左衛門がその小屋で名香を薰じたとの談を載せるから、慶長・元和の頃のことであらう。

サイジユウ ウ西住 江沼郡奥山方に屬する部落。茂穂紀聞に、この村の領に西行の弟子で、西住が居住したといひ、西住が塚の跡といふある。

サイジユウ 在住 藩末の頃人持組より採用し、越中魚津・水見・能登所口・宇出津・輪島・正院に在つて、沿岸の警備に當つたことをいふ。在住敷には櫓を設け、御馬廻・御横目・與力・小代官・足輕が附屬し、幾分の刑法をも取扱ひ、火災の時は消防を指揮した。毎年三月より十月迄張在住し、その他は金澤日長谷部信連の寄進狀がある。

サイシヨウジ 西照寺 河北郡横山なる賀茂神社の社僧で、天台宗に屬した。塔頭に十二坊あつたといふが、末森戦の後佐々成政の軍に焼かれ、僅かに草庵を營むばかりになつた。今斷絶して存せぬ。

サイシヨウジ 最勝寺 金澤上小川町にあつて天台宗に屬し、紫雲山と號する。寺記に、天正十二年玄舜小松に建立。二代玄徳は能書で、慶長六年の比小松城代前田長種の許にあつた前田利常に指南をした。十八年利常の命で金澤八坂に移り、寛永十九年山崩の爲小立野に寺地を受けたが、寛文九年寶圓寺の地内に併された爲更に卯辰に移つたとある。

サイシヨウジ 最勝寺 石川郡坊丸に在つて、真宗東派に屬する。明治十一年八月寺號公稱の許可を得た。

サイシヨウジ 最勝寺 河北郡長屋に在つて、真宗東派に屬する。初め道場であつたが、明治二年寺號の公稱を許可せられた。

サイシヨウジ 最勝寺 鹿島郡七尾に在つて、真宗東派に屬する。永享十一年靈泉寺二代圭達を開基とする。

サイシヨウジ 西勝寺 金澤五寶町なる西本願寺別院境内に在り、真宗西派に屬する。初め河北郡長屋谷に創建し、正徳二年今之地

に移つたといふ。

サイシヨウジ 西勝寺 鹿島郡七尾に在つて、真宗東派に屬する。

サイシヨウジ 西勝寺 能美郡小松泥町に在つて、真宗東派に屬する。初め本折に在り、次いで小寺村に轉じ、正保二年今之地に移つたといふ。

サイシヨウジ 西照寺 球美郡飯田に在つて、真宗東派に屬する。寺藏の絹本着色親鸞聖人繪傳四幅は、各堅一米三七種・横七四種を測り、『大谷本願寺親鸞聖人之縁起加州加ト郡蒼

とも書かれた。式内等舊社記に、『穴水郷岩宮

に在る。能登誌に、『岩車村西の出崎を最勝・森といふ。不思議なる形の面白き出崎にて住吉宮あり。中居村の南(中居南)の向にて、神明の端と此住吉の崎出合て、山水の詠め實にかぎりなき風景なり。此最勝・森へ毎年大晦の夜には龍灯登るといへり。』と記する。

サイシヨウノモリスミヨシヤ 最勝森住吉社ともいひ、伊波西龍燈社又は宰相森住吉宮とも書かれた。式内等舊社記に、『穴水郷岩宮